

# 経営比較分析表（令和5年度決算）

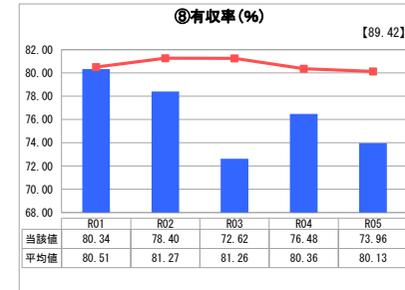
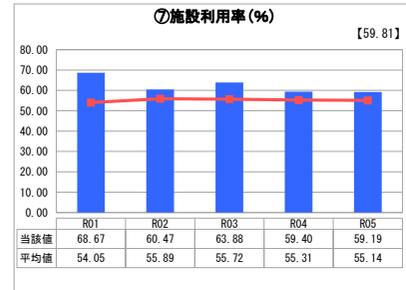
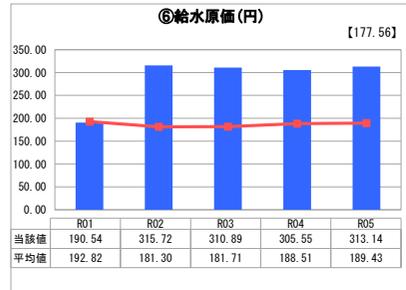
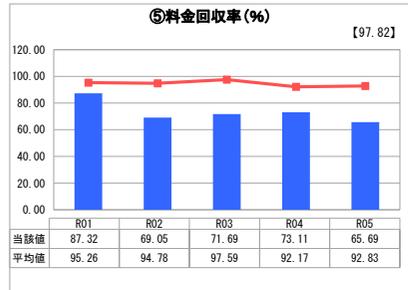
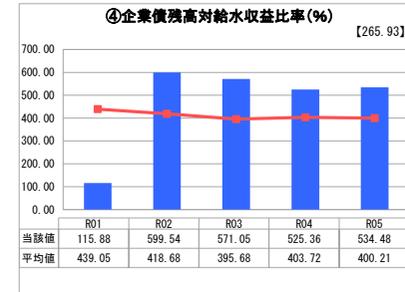
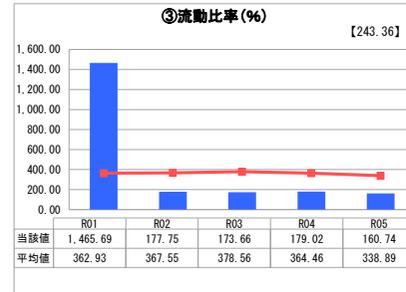
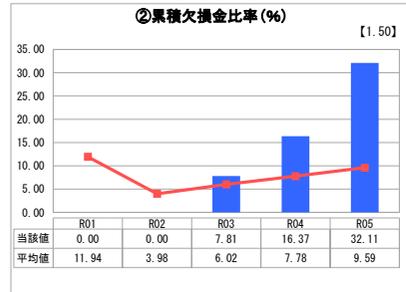
岡山県 高梁市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	64.16	95.40	4,180	

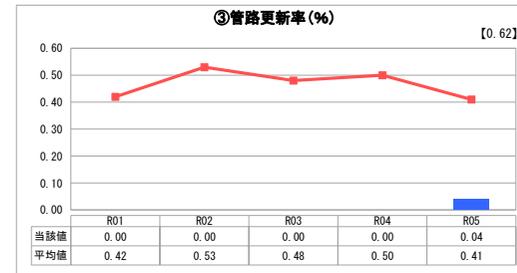
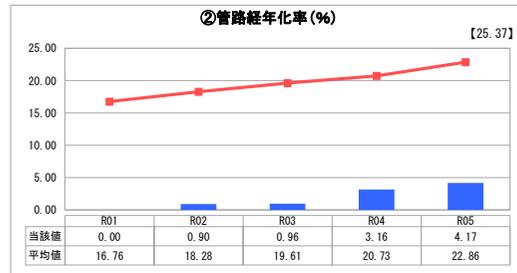
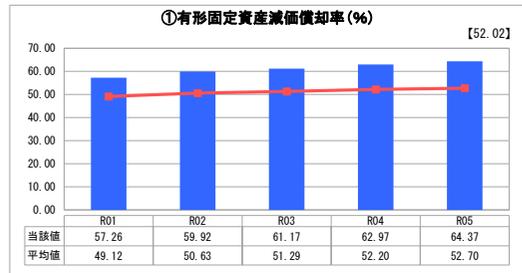
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
26,861	546.99	49.11
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
25,278	290.22	87.10

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和5年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

前年度と同様、類似団体平均値に比べ経常収支比率、料金回収率が低く、累積欠損比率、給水原価は非常に高い数値を示している。これは、中山間地域が多く、高低差の激しい地形に集落が点在しているためであり、浄水場が点在し、加圧・送水ポンプ、配水池、調整池、減圧弁等の施設が多く、給水原価や施設維持費が高くなっていることに、料金収入が不足していることを示している。

流動比率は低く、企業債残高対給水収益比率は非常に高い率を示しており、企業債の償還が経営の大きな負担になっている。これは、平成10年代に旧簡易水道の施設整備を集中して行ったことの影響であり、今後はしばらくこの傾向が続く見込みである。

有収率も類似団体平均値より低い水準であり、管路の老朽化による漏水が大きく影響していると考えられている。

今後、中山間地域の給水人口は急激に減少することが予想されており、また、節水意識の向上もあるため、給水収益の減少と施設利用率のさらなる低下が考えられる。このような中、安定的な経営を行っていくためには、経費節減の徹底と安定した給水収益を確保する必要があり、水道料金の改定を行う必要がある。

### 2. 老朽化の状況について

前年度と同様、管路経年化率は全国平均値や類似団体平均値と比較して低い数値となっている。施設及び管路は昭和50年代以降に建設されたものが多く、今後も老朽化が進んでいくことにより、修繕等の維持管理費が増加することが見込まれる。

また、管路更新率も低く、有形固定資産減価償却率は平均値を超えており、全体的に施設の老朽化が進んでいる状態である。

法定耐用年数による更新は現在の経営状態では困難なため、アセットマネジメントを基に、重要度、優先度を考慮した更新を行い、費用の増加を抑制しつつ老朽化に伴う突発的な事故の軽減に努めていく必要がある。

### 全体総括

令和2年度から旧簡易水道と統合したため、経営状況が著しく悪化しており、前年度と同様、各経営指標は非常に厳しいものとなっている。今後の急激な給水人口の減少による料金収入の減少は避けられない中、老朽化する施設の維持管理を行っていくためには、限られた予算の中で最大限の効果を発揮できるよう、更新計画を立て、確実に実行する必要がある。また経営改善による費用の抑制を実施するとともに、事業が継続可能な料金収入を確保するため、料金改定を行っていく（直近では令和7年度および令和12年度に料金改定を行うこととしている）。